

平成24年11月15日

「復興支援士業ネットワーク」による無料相談会開催報告書提出の件

一般社団法人復興支援士業ネットワーク
代表理事 磯脇 賢二

1. はじめに

東日本震災とその復興という大変な状況の中で、被災された皆様からの問い合わせや悩みに対応するため、法律や生活相談の話に限らず、不動産・登記・税金・年金・雇用問題・失業問題・保険・事業資金調達・二重ローン問題など様々な問題を抱える被災者の方々のあらゆる相談に応じ、皆さんのストレスを少しでも和らげ、地域の皆様に寄り添って活動をしていくために、一般社団法人復興支援士業ネットワークは、市民を対象とした無料相談会を開催しました。

2. 一般社団法人復興支援士業ネットワークによる無料相談会について

主催 一般社団法人復興支援士業ネットワーク

後援 石巻市、石巻商工会議所、社団法人石巻観光協会、社会福祉法人石巻市社会福祉協議会、宮城県商工会連合会、宮城県司法書士会、宮城県行政書士会、三陸河北新報社、石巻日日新聞、ラジオ石巻、石巻専修大学、千葉商科大学、淑徳大学、プロジェクト・ニッポン、東日本大震災事業者再生支援機構

日時 平成24年10月28日10:00~16:00

~10月29日10:00~15:00まで、

場所 石巻市内仮設住宅

3. 来場者および当日のスケジュール

当日は、市内の仮設住宅を巡回しながら相談業務や説明会を行いました。2日間で40人くらいの方が参加されました。詳細は、別紙のとおりでございます。

日時等		場所
土曜日 AM10:00~PM3:30	①	仮設渡波第2団地
土曜日 PM4:00~PM6:30	②	仮設南境第7団地
日曜日 AM10:00~PM3:00	③	雄勝地区仮設住宅巡回

4. 相談内容

相談内容は、震災からの生活再建をどのように進めていくかが大部分でした。具体的に申し上げれば、住宅および事業における二重ローン問題、建物の滅失登記した後の不動産税務（固定資産税）の取扱、仮設住宅の生活環境、仮設住宅閉鎖後の復興住宅への入居問題・事業再生・資金調達等などがありました。説明会では、小さくてもいいから、家がほしい。復興住宅建設が遅すぎる。子供のいない高齢者がどうやって住宅ローンを組めばいいのか。ローンを組むにも担保となる家が流されており、担保がないために銀行から無視され、返済という段階に進むことができない。今、仮設住宅にはアルバイトしかなく、仕事がない。ゆえにローン返済ができない。復興住宅に入居した後の家賃はどうしたらいいのか。もともとの仕事に戻れない。事業を再開するにはどのようにしたらいいのかという声が多数あがりました。仮設住宅の自治会長さんのところには、被災者からの相談が絶えないといいます。この原因は、仕事に従事する機会がないによる将来の生活への不安があり、参加された方々は、①事業系の支援策だけでなく、一般庶民にたいする支援策の充実。②貸付制度ばかりではなく、義捐金や補助金制度の充実を口々に訴えていらっしやいました。仮設住宅にお住まいの方は、ローンを組むところまで段階が進んでいないと思っていちゃいます。

雄勝地区での巡回相談では、高台移転に際して、できるだけ広い住宅に住みたいという方が多くおりました。しかし、広い家になると土地取得費用や建築費用が多くかさみます。雄勝地区は高齢の方が多く、仮に広い家を建てた場合、ローンの金額も増える。子供孫の代までローンを背負うようなことはせず、できるだけ無理のないようにローンを組んだほうがいいのではという話をしました。ただ、話だけするのではなく、簡単なキャッシュフロー表を作る手伝いをしながら、無理のない返済のあり方の説明を心がけるとともに、公営住宅に賃貸する方法など、いろいろ生活していく方法があることを、図表をもちいながらきちんと説明する様にしたいと思います。

今回の相談会では、40名程（内訳相談会参加者10名・茶話会参加者20名・説明会参加者10名）の方が相談に訪れておりました。

5. プラン及び準備

東日本大震災で被災された皆様からの問い合わせや悩みに対応するため、法律や生活相談の話に限らず、不動産・登記・税金・年金・雇用問題・失業問題・保険・被災住宅の安全確保や修理方法・事業資金調達・事業再生・二重ローン問題など様々な問題を抱えております。そこで、宮城県司法書士会・宮城県司法書士会をはじめ多くの企業・NPOの協力を得て、今回も仮設住宅に入って被災された方の悩みを直接聞くことで被災者の方々のあらゆる相談に応じる体制を作りました。

南境仮設住宅の自治会長さんの要請で、南境仮設住宅で緊急の2重債務（住宅ローン・事業系ローン）の説明会を開催しました。また、新たな試みとして、支援の手が生き届きにくい雄勝地区に、仮設住宅を巡回しながら1件1件ノックをしながら、被

災された方の相談に乗りました。渡波第2仮設住宅と雄勝森林公園仮設住宅で茶話会を開催し、参加された方に対してざっくばらんに日常で困っていること、今後の生活設計でどのようなことに困っているかを伺い、それに対してどのような方法があるかを説明しました。

相談会開催に際しては、民生委員・児童委員・消防団の団長・地域の自治会長など地域のオピニオンリーダーといわれる人たちへの告知や理解に重点を置きました。今回も、2,500枚のチラシを製作し、総合相談会開催の仮設住宅に直接チラシを配布して総合相談会開催をPRに務めました。

6. 総合相談会を開催して良かった点

良かった点

- ・ 説明会では、本音で被災者の思いが聞けたということです。今までは、遠くから復興支援のためにわざわざ来てくれたという遠慮から、なかなか言い出せないところもあったと思います。しかし、復興がなかなか進まない、今後の生活はどうなるのかわからない、自分に合った仕事がなかなか見つからない、狭い仮設住宅で不自由を強いられていることによるストレス、今後も支援の輪が広がっていくのかという不安が原因です。自分自身が今までためていた思いを吐き出すことができ、少しでもたまったストレスが吐き出されたら幸いだと思います。
- ・ 新たな試みとして、支援の手が生き届きにくい雄勝地区に、仮設住宅を巡回しながら1件1件ノックをしながら、被災された方の相談に乗りました。渡波第2仮設住宅と雄勝森林公園仮設住宅で茶話会を開催し、参加された方に対してざっくばらんに日常で困っていること、今後の生活設計でどのようなことに困っているかを伺い、それに対してどのような方法があるかを説明しました。

7. 次回に向けての改善点

- ・ 今後は、高台移転に伴う旧不動産の処分における登記の問題や、公営住宅に入居するか、住宅ローンを借りて自宅を購入するかなどの相談が増えてくると思います。取り扱いも相続・保険の事・2重ローン問題など生活に身近な問題を中心に、少しずつではありますが、事業復興再生の問題が出てくると思います。それらに対応できる体制を構築します。
- ・ 説明会では、2重債務問題にとどまらず、復興支援の問題にまで話が膨らみました。わかったことは、被災者が被災者の相談に乗っているということです。震災からの復興が思うように進んでおらず、被災者が生活に不安をもっているのが主な原因だと思います。継続的に専門家が、被災された人の悩み等話を聞く機会を継続的に開催すべきだと思いますし、そのような支援をしていきたいと思っています。
- ・ 雄勝地区では、高台移転に際して、できるだけ広い住宅に住みたいという方が多くおりました。ただ、このような方法がありますよと話だけするのではなく、簡単なキャッシュフロー表を用いながら、無理のない返済のあり方の説明を心がける

とともに、公営住宅に賃貸する方法など、いろいろ生活していく方法があることを図表等を持ちながらきちんと説明できるようにしたいと思います。

- ・ 総合相談会開催の事前告知に今後も力をいれていきます。チラシ配布する際には、ただ渡すのではなく、石巻市や石巻社会福祉協議会、NPO 団体と協力して民生委員・児童委員・消防団の団長・地域の自治会長など地域のオピニオンリーダーといわれる人たちへの告知や理解を十分得られることに重点をおいて、丁寧に渡すことを徹底していきます。

8. おわりに

我々「震災お助け専門家相談隊」は、今後も継続的に活動をするために、平成24年6月20日に一般社団法人復興支援士業ネットワークとして法人化いたしましたことを併せてご報告いたします。法人化後も、引き続き東北復興を継続して応援させて頂きたいと思いますので、今後ともご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。